

仙台市公民館運営審議会議事録

(令和5年8月定例会)

○ 日 時

令和5年8月24日(木) 午前10時00分～11時20分

○ 会 場

生涯学習支援センター 5階 セミナー室

○ 出席者

〔委員〕 相澤雅子委員、伊藤美由紀委員、大内幸子委員、幾世橋広子委員、熊谷敬子委員、
佐藤正実委員、菅原正和委員、鈴木京子委員、牧靖子委員、松田道雄委員、三浦和美委員

〔事務局〕 生涯学習支援センター長 武者
生涯学習支援センター次長 内海
生涯学習支援センター事業係長 横山
青葉区中央市民センター長 吉田
宮城野区中央市民センター長 石川
若林区中央市民センター長 梅沢
太白区中央市民センター長 猪股
泉区中央市民センター長 内海
地域政策課長 市川
公益財団法人仙台ひと・まち交流財団市民センター課長 佐藤
(欠席：生涯学習部長 柴田、生涯学習課長 田村)

○ 傍聴人

なし

○ 資 料

- ・次第
- ・住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について [答申]
- ・障害者の生涯学習推進事業 障害のある人もない人も共に学ぶ「ミンナシテマザール」
- ・第45回全国公民館研究集会等宮城大会

※ 会議の概要

1 開 会

事務局：皆さま、大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、令和5年8月の仙台市公民館運営審議会を開催いたします。

初めに資料の確認をお願いいたします。次第、答申の写し、ミンナシテマザールの説明資料、第45回全国公民館研究集会宮城大会のチラシとなります。こちらは事前に送付をしている資料でございます。なお、答申について、一部表現を修正した箇所がございますので、改めて配布させていただきます。そちらをまずご説明したいと思います。

本日机上配布した答申の25ページをご覧ください。【コロナ禍が残したもの】というところの、第1段落目の下から2行目、「町内会や子供会などの組織が、弱体化したところがあり・・・」というふうにしております。これ皆さまにお送りした段階では、「町内会や子供会などの組織が解体したところもあり・・・」という表現だったのですが、解体という言葉が弱体化と修正をしております。こちらの答申が最終の答申ということになりますので、ご了承ください。

また、本日、市瀬委員と、福士委員から欠席のご返事をいただいております。現時点で、委員の過半数である7名以上の出席を満たしておりますので、市民センター条例施行規則第10条第3項の規定により、有効な会議として成立しております。

続きましては事務局より本日の欠席職員をご報告いたします。柴田生涯学習部長、田村生涯学習課長の2名が、勤務の都合により欠席しております。田村生涯学習課長の代理として生涯学習課の加藤主幹が出席をしているところでございます。それでは、議事に入りますのでここからは松田会長をお願いいたします。

会長：皆さま、おはようございます。よろしくをお願いいたします。

この会議は原則公開となっておりますが、傍聴の希望はございますでしょうか。

事務局：本日はございません。

会長：ありがとうございます。では次に議事録の署名委員ですが、名簿順で、前回は牧委員にお願いしました。今回は三浦委員をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。では早速ですが、2の答申に入ります。事務局よろしくをお願いいたします。

2 答 申

事務局：それでは、会長より答申をいただきます。会長、センター長ご移動のほどお願いいたします。

会長：仙台市公民館運営審議会は、令和3年11月11日、仙台市生涯学習支援センター長から、「住民参加型学習事業の成果の確認と今後の展開について」諮問を受け、鋭意検討を行っていたところですが、今般別紙のとおり成案を得ましたので提出いたします。

センター長：ありがとうございました。

事務局：会長、委員の皆さま、本当に大変ありがとうございました。それでは、ただいまの答申を受けま

して、今後の取り組みの方向性などについて、ご説明をさせていただきます。

センター長：ただいま、公民館運営審議会答申、「住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について」を受け取らせていただきました。委員の皆さま 2 年間にわたっての闊達なご議論いただきまして、誠にありがとうございました。この答申、我々が市民センターの事業に今後どのように活用していくか、その方向性につきまして、ご提示をいただきました 3 つの視点に沿ってご説明させていただきます。

大人事業の紹介冊子であります「学びのカタチ」から、実際の事業にも触れながら、今後こういうことにさらに力を入れていきたい、というお話をさせていただければと思います。

まず、1 点目は「住民参画型の学び」という点です。市民センターは地域の全ての住民に開かれたオープンな存在であること、住民参画のプロセスが重要であること、という答申受け、私ども再確認しているところでございます。また、地域を超えた市民センター間の交流や、連携についてもご提言をいただきました。例えば、冊子の 2 ページの下をご覧ください。成果報告会を 1 月に実施しており、松田会長、相沢副会長、伊藤委員に助言者としてご協力いただきました。大変ありがとうございました。こうした復旧や交流の場を、活動の活性化でのモチベーションアップに今後も有効に活用して参ります。併せて、住民参加を促進する市民センター職員の資質向上に向けた研修など人材育成に努めて参りたいと考えております。

2 点目は「世代間交流」についてです。異なる世代のニーズを受け止めつつ、大人も子どももフラットに学び合う、とりわけ子育て世代の参画が重要といったご指摘をいただいたところです。多世代の関わり、子ども達自身や子育て世代も積極的に参加している例としまして、9 ページの「東口ゆうえんち」などが、大変象徴的かと思えます。

また 15 ページ『「みんなの広場」プロジェクト』では、企画員が主導で、地域の賑わい作りに取り組んでおり、小学校や児童館も巻き込んだ展開となっております。

16 ページの「パワフルとみざわネットワーク」は、おやじの会などが参加しまして、町内会と若い世代の橋渡しの活動となっております。今後もさまざまな地域で多様な住民が交流し、楽しみながら、地域課題の解決に取り組む活動を増やしていければと存じます。

3 点目は「地域資源」についてです。答申では、地域の文化や知恵、意欲がある人を再発見してそれを活用、発信することといった提言をいただきました。例えば、3 ページ「大倉ダムの魅力発信事業」は、地域の方々が、主体的、継続的に取り組んできた事業で、知見の蓄積や活動の広がりが見られるところです。また、10 ページ「柘江の森 魅力発信プロジェクト」や、14 ページの「楽元の森プロジェクト」といった地域の自然、資源を生かした事業、また 18 ページの「いずみ探訪－地域案内人養成講座」など、歴史を生かした事業も活発に行われております。このように地域資源を活かした多様な活動が広がるよう、今後ともサポートしてまいりたいと存じます。

4 点目は「持続可能性・つなぐ役割」についてです。答申では、住民の自立を支援する姿勢、地域で情報共有して活動する仕組み作り、また長期的な関わりの重要性などをご指摘いただきました。12 ページの「わたしのふるさとプロジェクト」は、震災で被災した地域のつながりの再生に向けて、継続的にさまざまな活動を展開してきたものでございます。連携の多様さも特徴となっております。8 ページの「子どもの広場（居場所）づくりボランティアの養成」は、住民の皆さんが地域の人材として育成され、今後も活動を広げて継続していくという事業となっております。

5 点目は「情報や成果物の発信」についてです。こちらは特性や世代格差などを踏まえて、ニーズや対象に即した発信の工夫を求められることや、紙とインターネットの併用などについて提言をいただ

きました。5 ページ「ふるさと落合栗生地元塾」は、案内版やリーフレットを作成し、子供から大人まで多世代を対象としたガイド活動を活発に行っています。4 ページの「大沢・川前地域交流ネット あがれ！天旗」は、凧揚げ大会が有名ですが、YouTube での PR 動画配信に挑戦しております。引き続きさまざまな事業において、皆さんの学びの成果とやる気が伝わる、効果的な発信が可能となりますよう取り組んで参りたいと思います。

6 点目は「アフターコロナ」です。人との関わりやつながりの重要性、コロナ後の市民センターの役割として新たな人材育成、地域のさまざまな団体や活動と、学校や行政をつなぐことといった期待をいただきました。13 ページの「若林ウィメンズオープンカフェ」は、孤立しがちな個人が地域社会と関わりを持つきっかけとなるよう、さまざまな企画に取り組んでいます。また 22 ページの「地域いきいき いずみ中山ふれあいプロジェクト」は、異なる地域の人達のふれあいと健康作りをはかるために、地域包括支援センターとも連携して人材の育成、ネットワークの構築に向けて活動しております。今後も、市民センターとして、コロナ後の新しい動きに即して、地域活動の再生や活性化の促進を目指して参りたいと考えております。

以上、冊子から事例をご紹介しつつご説明させていただきました。このたびの答申には、市民センターに対する応援、期待のメッセージがたくさん詰まっていると感じています。住民参画型事業のみならず、市民センターの在り方に対しても大きな示唆をいただくことができました。答申でお示しいただいた 6 つの視点を念頭に、学び・交流・地域づくりの拠点として期待される機能をしっかりと果して参りたいと存じます。誠にありがとうございました。

会長：丁寧なご説明ありがとうございました。では委員の皆さまからご意見ご質問などございますか。よろしいですか。それでは、3 の報告に入ります。

3 報 告

会長：今年度から新しく取り組んでいる「ミンナシテマザール」の説明です。事務局よろしくお願ひします。

事務局：それでは、障害者の生涯学習推進事業「ミンナシテマザール」につきましてご報告をいたします。

事務局：それでは、前方の画面及び配布資料をご覧ください。障害者の生涯学習推進事業、障害のある人もない人もともに学ぶミンナシテマザールについてご報告いたします。まず「ミンナシテマザール」とはどのような事業か。これは、障害のある人もない人も共に学べるプログラムです。今年度すでに 2 回実施をしています。6 月には「ミンナシテツクール」と題した七夕飾りづくりを、7 月には「ミンナシテスポーツ」と題したインクルーシブスポーツ体験を実施しました。実際の様子を写真でご覧ください。こちらは七夕飾りを作っている様子です。障害のある方もない方も、この時は外国籍の方もいらっしゃいました。同じテーブルに着いて七夕飾りを作っています。こちらのテーブルも皆さん楽しそうに作っています。この時は、せんだいメディアテークとも連携をしています。メディアテークでは、雑がみ部というさまざまな雑がみを使ってさまざまな物を作る活動があるのですが、そちらと連携をして、たくさんの雑がみを使わせていただきました。皆さんと同じテーブルで共に活動して、完成した七夕飾りがこちらです。完成した七夕飾りは、生涯学習支援センター5 階のロビーに飾らせていただきました。

ここからは、7月に実施したみんなしてスポーツの様子です。パラリンピックの種目で、日本人選手が金メダルを獲得したこともあり、注目が高いボッチャですが、このようにたくさんの方がボッチャを楽しんでいます。ボッチャだけではありません。当日は、仙台市障害者スポーツ協会、日本ゴールボール協会、仙台リゾート&スポーツ専門学校の学生さんに、ボランティアとして来ていただきました。これはゴールボールの体験で、視覚障害の方でも楽しめる、鈴が入っているボールを使った競技になります。これは、フライングディスクです。こちらは、シャッフルボードという競技です。このように、ミンナシテマザールとは、障害のある人もない人もともに学べる、ともに同じ時間を同じ空間を過ごすことができるプログラムです。これを今年度から生涯学習支援センターで実施しています。

なぜミンナシテマザールを始めることになったのか、ここからはその背景や目的をお話しいたします。令和4年度まで、生涯学習支援センターでは若い青年教室という事業を実施していました。こちらの事業は知的障害がある方を対象に実施をしていたプログラムで、長年同じ方が参加しておりました。福祉部門の障害者向け支援サービスが年々充実していく中で、内容の重複が少し課題になっていたところでした。そういった流れの中で、文部科学省からは、障害者の生涯学習の推進方策について、また「仙台市社会教育委員の会議」からは、全ての市民の学びに向けた生涯学習政策についてさまざまな提案がなされ、障害がある方の生涯学習をいかに推進していくかが大きな課題の一つになっていました。そのような流れを受けて、生涯学習支援センターでは、障害の有無に関わらず、誰もが学べる場を、私達の市民センターに作っていかうと考え、ミンナシテマザールを企画し、今年度から実施をしています。

それでは、どのようにミンナシテマザールを企画したのか、その作り方、手法についてご報告いたします。大きく2点です。一つ目はたくさんの人とつながってミンナシテマザールを作っています。二つ目はミンナシテマザールを実施していることをたくさんの人に伝えていきます。まずはつながりからです。ミンナシテマザールを実施するにあたり、私達はたくさんの皆さんとつながっています。例えば、全国的にも活躍をしているのですが、特に宮城・仙台で、障害のある方の文化芸術活動を振興している、エイブルアートジャパンの皆さん、さまざまな障害のある方向けのワークショップ等を展開している美術作家さん、今年度は6月に実施されました、障害のある方もない方も共に音楽を楽しむイベントを実施されている、とっておきの音楽祭さんなど、すでに障害のある方と共に活動している皆さんと、このミンナシテマザールではつながっています。また、仙台市にはさまざまな施設や関係課がありますが、その中でも、せんだいメディアテークさん、生涯学習課さん、特別支援教育課さん、学生を派遣していただいた専門学校さん、スポーツ団体さん、こういった皆さんとつながりを作ることで、ミンナシテマザールを実施しています。

ここからは1回目に講師として来ていただいた、美術作家の佐竹真紀子さんです。2回目のミンナシテスポーツを実施するにあたっては、仙台市障害者スポーツ協会、日本ゴールボール協会の協力をいただきました。

そして皆さん気づきましたでしょうか。9月16日に第3回のミンナシテマザールを実施します。内容は街歩きです。そして講師は、この公運審のメンバーでもあります、佐藤正美さんに来ていただいて実施をする予定です。このようにさまざまな皆さんとつながることでミンナシテマザールを作っていきます。

作るだけでは、人が集まりません。さまざまな形でたくさんの皆さんにミンナシテマザールの実施をお伝えしようとしています。市政だよりやチラシでの告知はもちろん、仙台市障害企画課では、さまざまな障害がある方の皆さんの就労支援施設などとネットワークがございいます。そういった福祉部門のネットワークを活かしてさまざま告知を行っています。また、特別支援教育課を中心とした教育部門の

ネットワークを活かした告知も行っています。加えて、ミンナシテマザールを作る過程でつながった、生涯学習支援センターのネットワークも活用しています。一方向だけではなく、さまざまな方向にミンナシテマザールの実施をお伝えすることで、たくさんの皆さんに参加をしていただきたいと思いますと考えています。

実際に、参加していただいた方の感想をお伝えします。これは2回目スポーツの参加者の感想です。これは当事者の方に書いていただいたのですが、約2時間の間、夢中になって競技を体験していただきました。フリスビー、フライングディスク、ボッチャにも何回も何回もチャレンジしていた方です。

こちらも当事者の方ですが、「なかなか出来ないスポーツができて楽しかった」とのことです。障害のある方はない方に比べて、運動の機会が少ないとも言われています。そういった中で、本当にたくさんのスポーツに触れていただきました。ボッチャ得意なんだと言っていたこの当事者の方がいましたが、当日、とても調子が良かったということで、私、1対1でやって負けた方です。

ここからは七夕飾りの感想です。これも当事者の方ですが「作ったり飾ったりして楽しかった」という感想をいただいています。こちらはお子さんですね。親子で参加していただいた方の感想です。最初のところをお子さんが書いていただきました。「作るのが楽しかったです」とのことです。このお子さんは参加した中で一番大きな飾りを作って飾ってくれました。

こちらは発達障害のある当事者の方の感想になります。とても絵が得意な方で、先ほど紹介したエイブルアートジャパンさんの取り組みにもたくさん参加していただいています。こういった得意なことを、思う存分発揮をしていただいて、そして、それを誰もが受け入れる環境の中で参加をしていただきました。「ワールド出させていただきました」と記載がありますが、そういう得意分野を存分に出せる環境が作れたのかなと思っています。

こちらは健常者の方の感想になります。「皆さんと穏やかなゆったりした時間を過ごすことができました。そして隣の方に教えてもらったり、お話ができました。」とのことです。実は、ここでいう隣の方が、知的障害をお持ちの当事者の方になります。健常の方が知的障害をお持ちの方に教えてもらう。従来の支援する、されるという枠組み、ステレオタイプな枠組みを取っ払って、本当に一人ひとりの参加者、人間としての、参加している様子がこの感想からは伝わってきます。このような時間を作ることができて、企画した私達もとても楽しい時間を過ごすことができました。

ミンナシテマザールのこれからですが、このミンナシテマザールは生涯学習支援センターだけの事業ではありません。仙台市内に60館ある市民センターに、ここで培ったつながりや、ノウハウを広げていきたいと考えています。それは同じようなプログラムを全市民センターで行う、ということだけではありません。このミンナシテマザール、職員研修とも連動しています。今年度全6回を予定していますが、6回目を職員研修として、企画員の方に入っていただき、職員の方が企画したプログラムを第6回目に行おうと考えています。そこでは、どういった皆さんとつながったら、この障害がある人もない人も共に学べるプログラムを実施できるのか。そのつながりを感じていただいたり、誰もが参加しやすくなる配慮とはどのようなものなのかを、体験していただこうと考えています。

ここでいう誰もがというのは、障害がある方に限定した話ではございません。例えば高齢の方ですとか、年齢が低い方、あとは子育て中の小さいお子さんも連れて来なければならない方、そういった全ての皆さんが参加しやすくなる配慮などを、ミンナシテマザールを通して一緒に考えていくことができればと思っています。ミンナシテマザールは、あらためて、障害の有無に関わらず学べる場、これを作ろうとするものです。ミンナシテマザールを通して、こういった考え方が市民センターに広がっていくように、これからも支援センターでは実施をしていきたいと思えます。私からの報告は以上になります。

ご清聴ありがとうございました。

会長：素晴らしい報告どうもありがとうございました。ただ今の事務局からの説明について、ご意見ご質問いかがでしょうか、あればいただきたいと思います。はいどうぞ。

委員：障害者に対しての思いが私は強くて。父が視覚障害者だったので。仙台に引っ越してもらって、仙台でいろんな形の事業に参加し、いろんなことを体験させたりしました。市民センターさんで、門戸を開いていただけるということはとてもありがたいことですし、皆さんが待ち望んでいたのではないかと思います。視覚障害の人達が集まって、その代表の人達が、一生懸命いろんな行事を作ったり、みんなが集まって話をできるような場を作ってくれたり。また、仙台市福祉プラザに、いろんな形で参加してやっているのが現状です。上杉に視覚障害の人達の学校があるので、環境的には過ごしやすい場所です。地域みんなが、視覚障害者に対してすごく優しい地域であるということ、その雰囲気は他にはないだろうと思うぐらいに、心が広いというか、そういうのをすごく感じる地域です。ぜひこれを仙台市全体に広めてもらえれば、すごく良い地域づくりになるのではないかと思います。視覚障害者だけではなく、知的障害やいろいろな障害を持った人達がいっぱいいるので、それは当たり前なんだよ、いつ自分達になってもおかしくないし、隣にいて当たり前なんだよということ、子ども達にも知らせていただければうれしいなと感じています。ぜひ進めていただいて、現状をもっと皆さんで把握していただいて、そしてもっと皆さんで協議していただければうれしいなと思います。ありがとうございました。

会長：ありがとうございます。その他委員の皆さんよろしいでしょうか。はいどうぞ。

委員：私は41年目になる絵本作りのグループに入っているのですが、当初、障害者のためのおもちゃ作りから始まりまして、いろいろな障害者施設で勉強させていただいたり、頼まれたおもちゃ作りをしていました。20年前に仙台市で発表することがありまして、その時に係員の方々とお話して、障害者という言葉を取って、全ての子供達へと変えました。今は、全ての子供たちに安全で、優しいおもちゃ作りということ心がけて、講座を行ったり遊んだりしています。今、事務局の報告を聞いて、やっぱり障害者の枠を取って、全てを対象にすることは、私達も学べることもあるし、こうやって一緒にやれることもあると改めて思ったところでした。先日、七夕飾りを見せていただく機会がありまして、センター長さんにいろいろ説明していただきました。本当にアイデアがすごくて、従来の七夕飾りのイメージを超えて、いろんな子どもの発想とか、さまざまな世代の方が入ったということで、雑がみを使った着物を作ったり、包むもので七夕飾りの網のようなものを作ったり、いろんなアイデアを見せていただいて、私達もすごく参考になりました。また、何か機会に、そういうのを見せていただくこともあればうれしいなと思いました。ありがとうございました。

会長：ありがとうございます。そのほかありますでしょうか。よろしいですか。これからの未来志向の取り組みと言いますか、素晴らしいですね。ここから新たに、既存のボッチャや今あるスポーツだけでなく、いろんなクリエイティブな仙台発で世界に広がるようなものが生まれてくる可能性も大いにありますね。ありがとうございました。

皆さま方から、今期、さまざまなご意見をどうもありがとうございました。本日の会議は、今期最後の審議会になりますので、これまでの振り返りや今後への期待など、皆さま方から一言ずつ発言をいた

だいて、私の進行を終わらせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。順にお願いいたします。

委員：今日で終わりということで、いろいろ本当に皆さんと議論してきて、市民センターとか地域づくりについて、私自身もいろいろ勉強させていただいたと思っています。私も若い時というか、自分で活発に動けるうちは、ゴルフに行ったり旅行に行ったり、自分の住んでいるところ以外で活発に活動していました。しかし、シニア世代や体に支障をきたしたり、子育てで家から出られないなど、そういった場面で、どうしても自宅から半径何メートルというところでの活動を余儀なくされる人達もいます。その時に、拠り所というか、地域の拠点として市民センターの果たす役割は本当に大きいと思いつつながら、毎回話をさせていただきました。いろんなところに行くとも地域性がある、人がたくさん集まっているから豊かか、閑散としているから豊かではないということでもなく、人がいっぱいいても孤独な人がいたりするところもある。地域の力というのはそれぞれなので、その不足する部分をうまく補えるような形で、それこそ出張したり、いろんなところに提案や連携ができるような、地域の力が不足しているところを補えるようなこともしていけたらいいなと思いつつながら聞いていました。本当にいろいろ学ばせてもらいましたし、これからも地域活動をがんばろうと思いつつしました。ありがとうございました。

委員：視察研修とか楽しいことばかりでした。そして今日は、ミンナシテマザール、障害のある方もない方もというお話を聞きました。ちょうど先々週に、宮城野区民協会主催で、場所は中央市民センターの体育館で、小学生を対象にパラスポーツキャップハンディ体験を行いました。前の年に企画したらコロナで直前に中止になり、それをやっとなんか実施できました。3年生から6年生の小学生が50人近く集まり、実際にブラインドサッカーをされている方と一緒に体験したり、ボッチャやテニス、車いす体験、手話などもありました。本当に盛り上がり、子ども達も喜んでくれて、聴覚障害者の方や視覚障害者の方の気持ちを分かってくれたようです。高齢者の疑似体験も、こんなに大変なんだなとアンケートにいろいろ書いてありました。本当に企画してよかったと思いつつしました。数年前ですが、せんだい女性防災リーダーネットワークで、聴覚障害者の方とのワークショップ開きました。避難所にいらっしゃる方は、障害のある方も、高齢者も赤ちゃんも、LGBTQなど多様性ということで、いろんな方が避難してきます。その時にも、ちょうどそのワークショップを3年くらい開いたご縁で、みみさが宮城さんから避難所についての冊子を作りたいと話がありました。震災後、分からないことがいっぱいあって、冊子を作りたいので協力してほしいということでした。聴覚障害者の方や社協の方と、県の支援で作成したことがあります。私にとっては、防災には切り離せない身近なことで、今日のお話を聞いて、全ての方が参加して一緒に考えていくということは、いろんな人にももっと知っていただきたいし、防災にも欠かせないことです。災害がこんなに多くて日本中皆さんに知っていただきたいので、自分も一生懸命やっていきたいなと思いつつしました。生涯学習支援センターでは学ぶことが多く、皆さんと一緒にいろんな知恵も、ご意見も聞かせていただいて本当に良かったと思いつつしています。ありがとうございました。

委員：どうもありがとうございました。私はおかげさまで10年間委員を務めさせていただき、今日は卒業させていただきたいと思いつつしています。最初入ったときは、市民センターを第三者的な立場から見なければならぬということで、すごく引いた形で見えましたが、今どっぷりはまっています。これからは市民センター利用者として生涯学習を楽しんでいければいいなと感じています。その生涯学習の大切さというか、先ほどおっしゃっていたように孤独な方とかをどんどん表に出してあげたいという

思いで、私は社会学級に入りました。地域のおじいちゃんおばあちゃんとかみんな来るといいねという感じで、いろいろな話をする機会が多かったんですけど、実際市民センターぐらいの引く力がないと、なかなかできないだろうなというのを少し感じてまいりました。市民センターにおける課題はたくさんあります。私としては、ぜひ障害者も理解していただいて、SDGsであったり、男女共同参画であったり、やるべきことがいっぱいあると思いますので、これからは応援者として見ていきたいと思えます。今後ともがんばってください。ありがとうございました。

委員：3年間委員をさせていただいて、市民センターの方々の努力はすごいんだな、ということを感じていただきました。またこの「学びのカタチ」もとてもわかりやすく、地域の方々にも、もっと参加してもらえようになると、人生がこんなに豊かになるというのを私も学んだので紹介したいと思うところです。市民センターが遠い学校ですと、子どもたちが参加するには必ず保護者が車で行かないと参加できないという状況があり、そのような位置的なところは残念だなと思います。教育実習生に道德の授業をするときに、捨て猫の授業をしようと思って、保護活動をしている人いませんかと市民センターの方に聞いたところ、とても親切に「こういう団体さんがいます。お祭りの時に来る団体さんがいます。連絡してみますか」と言いつないでいただいて。おかげさまで保護団体さんやNPO法人さんにつないでいただき、保護されてきた子や、どんなことで苦労している、活動をしている内容を具体的に話してもらい、とてもいい経験をさせていただきました。市民センターの方のスキルというか、モノを知っている、どこにどんな人がいてどんな活動しているか頭に入っているのは本当にすごいなと思いました。市民センターの方の質の向上というか、きっと努力されているのだろうなと感じた次第です。ありがとうございました。

委員：この答申に関わらせていただきありがとうございます。主に地域資源というところで関わらせていただきましたけれども、皆さんの意見を先生にまとめていただきまして本当にありがとうございました。先ほどミンナシテマザールの話が出たので、少しだけ話しをさせていただきたいと思えます。ちょうど市民文化事業団さんの事業の一環で、青葉区中央市民センターさん、福沢市民センターさん、柏木市民センターさん、幸町市民センターさんでプレイヤーとして関わらせていただいているところがあって、実際にやってみると市民センターの職員さんは地域の方と密接につながって、どうやって楽しもうか、地元の良さを掘り下げていこうかとすごく考えていると思っています。一緒にやらせていただくとその職員さんの地域への愛情と、一緒に楽しんでやりたいという気持ちが伝わり、事業としては非常にいい感じになっているかなと思っています。特に青葉区中央市民センターさんと一昨年ぐらいからご一緒させていただいて、東二番丁小学校と立町小学校の子どもたちに社会教育の一環として、古い写真や地図を使ってまち歩きをやったり、一昨年と去年に、視覚障害者の方と一緒にまち歩きをしました。このミンナシテマザールの話いただいたときにすごく楽しみだなと思ったのが、いわゆる、まち歩きを楽しめる人同士でやるのと、通常まち歩きをしたことがない方と一緒にやるのではまったく違うんです。一つ例を出すと、五橋に小新堂というお菓子屋さんがありますが、お店の角にだるまさんがいます。私も初めて知ったんですが、手話にも方言があるそうです。五橋界隈を歩いてご案内した時に、まち歩きの手話の通訳者の方がパイプをくわえた手話をやったんです。それは何のことを言ってるんだろうと思って聞いたら、小新堂さんは五橋の角にあるので、五橋を表現するときは、パイプを持つだるまと同じ格好をすると五橋とわかるんですと言われました。たぶん健常者だけで歩いたのでは気づかない新発見で、こういうことに気づいて行くと子どもたちも喜ぶだろうなと思いました。子どもたちと一緒に

にまち歩きをやる、それから視覚障害者の方とご一緒させていただくときに、やっぱり面白いなと思ったのは、知的好奇心がある方だと何やってもたぶん楽しめるんだろなと思いました。今回のミンナシテマザールの話いただいたときに、これはまた面白そうなことができそうだなと思いましたので、9月16日楽しみにしております。生涯学習という面で、市民センターさんは、地域の宝さがしという意味ではとても重要な拠点になると思っています。今後にも大いに期待したいと思います。どうもありがとうございました。

委員：2年間関わらせていただきました。市民センターは60館あって、1館1館改めてみると地域性がぐっと出ていて、独自色がいっぱいある。そこに関わっている人もまたその独自性を持ってこの市民センターを利用しており、よく見てみるとごく一部の方が良く関わっていて、そこからの広がりがなかなかつかめないというのが一つの課題だと思います。やはりこの辺をどう解決していくか今後の課題かなと感じております。一回関わってみると楽しさというのが非常にわかるのですが、そこに入り込むまでのアプローチをどうやって作っていくかというのが一番問題なのかなと感じておりました。私も市民センターを使っていましたし、市民企画員などもやっていたので、やればやるほどどっとはまっていくという感じはするのですが、やはり特定の人だけが関わっているというのが市民センターのイメージになりつつあるのかなと思います。このあたりのイメージの脱却を図っていくということも必要なのではないかと思っていました。幅広くいろいろな世代の方に投げかけをしているのは非常に素晴らしいと思います。社会教育主事の皆さんや学校と子どもたちの関係、ジュニアリーダーなどとても頑張っているの、私は子ども達をうんと買ってあげたいという思いがあります。子どもって本当に1年見ないうちにすごく成長するんですね。あのリーダー力を見たら本当すごいなって、これを生かさないのはおかしいと思います。今後、仙台市もそういう世代がどんどん広がって行って、まちづくりをやっていこうというときに、どうやってそれを生かしていくかということが、また一つの課題かと思っておりますので、皆さんでいろいろ考えていただいて、すべての人が生き生きとしていける社会づくりのため、市民センター中心に回していければいいのかなと感じておりました。以上でございます。

委員：本当にここに来ていろいろ勉強しました。横文字にすごく弱いので、プロセスってなにと、そこから勉強しました。市民センター、イコール人があまり集まらないということもなんとなくわかるような気がします。そういうことをもっと超えて、いやあ、そんなこと言っていないで楽しいよ。あっちのグループはあっちのグループ、こっちのグループはこっちのグループ。そのグループ作るということ自体も、ミンナシテマザールという感じで。色んな人が混じって当たり前、市民センターに行けば大丈夫、一人にならないよ。そういう市民センターであってほしいなと思っています。市民センターも敷居が高くなく、どうぞお水だけでもいいですよ、トイレだけでもいいですよという感じにしてほしいないつも願っています。私も少しだけサークルに入ったことがあるんですけど、職員の方とは「和室使います」「あっ、はい」という感じを受けただけなんですよね。そうじゃなくって「元気」とか「今日暑いね」とか、そういう自然の話ができるような市民センターであつたらいいなと思っています。これからこの暑さがなくなったら、あっちこっちの市民センターを見学しに行きたいなと思っています。地下鉄、バスを利用していろいろ見学したいなと思っています。本当に勉強いろいろさせていただきました。ありがとうございました。ひとつだけいいですか。みなさんマスクしていて、顔がだんだん下に落ちてくるとマスクはもうはずせないって思っている人いると思います。笑顔、市民センターの方達は結構笑顔がありますね。笑顔でぱっと「おはよう」って言うてもらうだけでもすごくいいと思うので笑顔をみなさ

ん大事に。簡単に笑いを教えます。特に男性の方は大いに笑ってください。まず隣の人と視線を合わせます。睨まないんですよ、にっこり笑ってくださいね。もしマスク外せたらマスクを外しても結構です。息を吸います。吐くときに笑うんです。はじめは静かに 2 回目 3 回目って大きな声で笑ってほしいです。いいですか、大丈夫ですか。誰かが笑うと伝染するんです。1 回だけやってみましょう。ではお願いします。毎回やると皆さん笑顔がきれいになると思います。本当にありがとうございました。

委員：笑いをいただいてとっても幸せな気持ちになりました。ありがとうございます。グループ協議があったり現地に視察に行かせていただいたり、非常に内容の濃い学びをさせていただいたなど実感しております。会長、副会長がとても穏やかで話しやすい進行をしていただいたおかげだなと思って感謝しております。ミンナシテマザール、本当にこれは大事なことだと思っています。障害のある方という表現は個人的には好きじゃないんです。それはそれでみな贈り物であるのとらえております。今、幼児教育や学校支援地域本部などいろんな小学校も関わらせていただいています。正直な感想をいうと、小さいお子さんたちが何か抱えている、よくいうグレーであるとか、何か持っているかなという割合が高くなっている気がします。ちなみに私が子どものころ、元気で先生の言うこと聞かない、すぐ廊下に飛び出しちゃう男の子がいました。だんだんそういう子たちが特別支援学級に行くとか、学校の方でこれから生きやすい学びを受けていくようになる行政の仕組みも整えられてる中で、これも好きじゃない表現ですが健常者である普通の子もたちと触れる機会がどんどん少なくなっていると思います。あの子は暴れるからなんか怖いとか、親からの刷り込みもあるんじゃないかなと思っていて、昔みたいに一人二人クラスにそういう子がいて当たり前、みんなで遊ぼう、みんなで勉強しよう、みんなで何々しようという気持ちが、親のフォローがないとできなくなっているんじゃないかという実感があります。子どものころに少し抱えていることが発見されて、それが大人になってこういうミンナシテマザールや、引きこもりがちな者が外に出られるようになるというのはとても素晴らしいことだと思います。私自身も年取ったら、目が見えなくなる、耳も聞こえなくなる、頭も回らなくなる、だんだんできなくなることが、家の中でできることは何かな、近所でできることは何かな、市民センターのチラシ見て、これ楽しそうだから申し込んでみようかなとか、少しずつシフトされている自分を実感します。そういうところが実は当たりのことで皆が集える場所、つながりが作れるということが非常に大事な着眼点だと思っています。つながりを常に作るということが防災意識にもつながって、子どもたちにとっても防災意識の向上に自然とつながっていくものかなと思います。わざわざ何かをしなくとも、市民センターに行って七夕を作る、その中に色んな人がいる、いろんな人に教えてもらう。自分の飾りも一緒に飾ってもらうということがつながりを作り、何かあったときのお互い助け合う気持ちへつながるかなと思います。スタートラインを低くするという表現も変ですけども、健常の人たちのラインから何かをしましょうではなく、いろんな人のできるところをスタートラインとして誰にでも参加しやすいものにするということが本当にこれからの社会を生きやすくする大事なコツ、キーポイントかと思っています。そして先ほどお話にあったジュニアリーダーですが、先日、小学校で「わくわくデイキャンプ」というのをやらせていただいてジュニアリーダーが 2 人来てくれました。高校 1 年生と 2 年生で、直前のオフ会だったので都合つかないかもと思ったんですが、自分の学校だから行くと言って来てくれ、近隣の学校の子も来てくれました。父兄の方々がジュニアリーダーってこの 3 年間見たことがなかったけれども、こういう活動してるんだ、わが子もぜひ入れたいとジュニアリーダーの 2 人に一生懸命質問していました。やはりつながりを作っていくということが非常に大事だし、ジュニアリーダーもたくさん認めてあげたいなと思っているところです。この事業の成果の確認と今後の展開ということで学ばせて

いただいたことがたくさんありました。ありがとうございました。

委員：2年間大変お世話になりました。皆さんのコメント聞いて、なるほどと思うことや、毎回会議の後に一言話す機会があって温かい拍手をいただいて、そういう審議会も非常に珍しいと思い、本当に心の温まる時間を過ごさせていただきました。今日も車で仙台駅に来たときに、街がすごく新しくなっているなど、近くに住んでいても来るたびにいろいろなものが変わっていたり、高速バスの発着場ができたりと変化が著しいと思います。一方、仙台というのは非常に歴史のある場所でありますのでそういう新しいものと古いものと、その地域性を活かしながら生活していくことが大事なのかなと、この会議に参加させていただくたびに感じました。市民センターの利用につきましては、子どもが小さいころと小学生ぐらいまでは頻繁に使わせていただいたものです。その後、少し足が遠のくのかなと思いつて、学生などがどのぐらい市民センター利用しているのかというのは、今後の課題でもあるかと考えております。仙台市内それから県内の大学の数から学生の数を考えると、もっともっと10代後半から20代ぐらいの学生の皆さんの参加や出席が伸びていくといいなと感じましたので、いただいたポスターや資料を使って啓蒙も行っていけたらいいかなと思います。私、小学校の社会科の講義を担当しておりますけども、社会科の6年生の教科書の政治の仕組みのところで、市民センターを扱っております、20年ほど前は3年生でこれを扱っております。当時、指導資料を作成して市民センターの活用についての単元をまとめた経験があります。そういう意味で自分自身、市民センターの位置づけや、活用について積極的に言及し発言していくことも担っていく必要があると考えさせていただきました。今日は「答申」、「まなびのカタチ」の冊子、「ミンナシテマザール」ですね、この3つの資料について、今後、仙台市が進めていく共生社会という言葉に集約されている社会の実現に向けて動き始めているんだなというのを実感させていただきました。今後また皆さまと一緒に活動したり議論しながらこういうところを目指して頑張っていけたらと思っております。これまで大変お世話になりました。ありがとうございました。

委員：2年間大変お世話になりました。私自身は子どもが小さい時から市民センターさんにお世話になったり、一緒に活動させていただいたりして、娘もジュニアリーダーとして高校生まで育てていただいて、今もそれを生かせる職業についているのでとても感謝しております。先日、中学校の学校支援地域本部で、震災の時に立ち上げた寺子屋という事業を3年ぶりに開催しました。3週間前まで一人も集まらなくて、いろいろなところをお願いして大学生が14人集まりました。その時に市民センターの先生が来てくださりまして、勉強も一緒に中学生に教えてくださいました。お昼も大学生と交流持ちながらお話していて、その後も生徒が出した振り返りにコメントをもらったり、大学生と活動を話し合ってもらいました。社会教育主事の先生が、若者事業や市民センターの話をしてくださりまして、大学生は市民センター事業のこと知らなかったの、皆さん身乗り出して聞いていて、先生が丁寧に教えてくださいました。先ほどお話した絵本づくりグループで市民センターさんや児童館さん、未就園児のお母さんたちに講座をさせていただくんですけど、来週中山市民センターさんと大沢市民センターさんに行くので、ハロウィーンの話と凧揚げの話をお話聞いてきたいなと思っております。ここに来て2年間、最初はとても緊張する審議会でしたが、皆さんの人柄でここに来て楽しく終わったなと帰れる自分がすごくうれしいと思います。委員の皆さまのお話を聞くことでとても楽しく勉強させていただきました。本当にありがとうございました。

会長：ありがとうございました。今日の会議の冒頭で皆さま方と練り上げました答申を無事提出させていただきました。会長の役目に多々不備なところがあったところはお許しください。毎回の会議の前に副会長、センター長、センター次長と打ち合わせをして、副会長はわざわざ暑いところお越しただいて、私はオンラインで参加して、事務局の皆さま方が誠実に丁寧な段取りいただきました。会議は皆さまからクリエイティブで前向きな意見をどんどんご発言いただき、社会教育主事の先生方が全体をコーディネートしてという環境をいただいたことで、私も皆さま方とありがたく時間を過ごして参加させていただくことができました。大学の授業ではまさに社会教育主事の課程で学生の授業を担当していますが、実際に市民センターに一人の市民として足を運んだほうが 100 倍勉強になるからと、それぞれ都合の良い時間帯に足運んでレポート書いて、そこからさらに話を深めるような授業も試みているところです。これからも若い大学生には、どんどん市民センターに目を向けてほしいです。実際に行ってみないとわからないですね。このようなことを、授業としても学びとしてもできるような仕組みをさらに行っていきたいと思っていますので、皆さま方からも引き続きいろんな情報いただければありがたいです。本当にありがとうございました。では皆さんよろしいでしょうか。事務局に戻します。

事務局：皆さま、本当にありがとうございました。次第の 4 その他でございます。第 45 回全国公民館研究集会等宮城大会のチラシを事前に送付しております。参加を希望される方は生涯学習支援センターにて一括して申し込みますので、会議終了後事務局までお声がけいただければと思います。参加費は仙台市で負担いたしますが、昼食代はご本人負担となりますので後ほど請求書をお送りいたします。それでは以上で今期の公民館運営審議会的一切を終了いたします。これまで大変ありがとうございました。感謝いたします。

以上

会 長

会議録署名委員
